

平成 23 年度研究開発成果概要書
「革新的な三次元映像技術による超臨場感
コミュニケーション技術の研究開発」

(1) 研究開発の目的

人間の空間認知メカニズムに基づき、実在感、臨場感という感性情報を十分伝達できる立体表示方式の開発に必要な、脈波、脳計測などの客観的計測に基づく臨場感計測技術の確立を目的とする。

(2) 研究開発期間

平成 21 年度から平成 23 年度 (3 年間)

(3) 委託先企業

シャープ (株)

(4) 研究開発予算 (百万円)

平成 21 年度	10 (契約金額)
平成 22 年度	10 (")
平成 23 年度	9 (")

(5) 研究開発課題と担当

課題エ：感性情報認知・伝達技術 (シャープ (株))

(6) これまで得られた研究開発成果

		(累計) 件	(当該年度) 件
特許出願	国内出願	4	1
	外国出願	0	0
外部発表	研究論文	0	0
	その他研究発表	1	1
	プレスリリース	0	0
	展示会	0	0
	標準化提案	0	0

平成 23 年度の具体的な成果

- (1) 大型マルチ画面 3D ディスプレイ用の等身大映像コンテンツを作成して、被験者に等身大の立体像を提示した。
- (2) (1) の映像を用いて、被験者のべ 50 名による生体作用評価実験を実施し、主観評価と、脈波による客観評価の両方を行った。
- (3) (2) の実験から、統計的に有意な変化をする生理指標を得た。

(7) 研究開発イメージ図 (別紙)